

本別町総合計画等審議会（第４回）議事要旨

期日 令和７年２月２０日（木）１８：３０～１９：３５

会場 本別町役場３階会議室

1. 開会【事務局】

お集まりいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので総合計画審議会第４回を開催させていただきます。

お手元の資料を確認させていただきます。審議会第４回次第、中高生アンケート結果報告、各種計画策定スケジュール、そして、事前にお送りしました、町民アンケート結果報告書になります。

はじめに、会長からご挨拶をいただきます。

2. 会長挨拶【会長】

会長の松野です、お忙しいところどうもありがとうございます。

本日は、第４回目の審議会になります。本日は、先に行いましたアンケートの結果に事務局から説明をいただき、そのアンケートを踏まえて皆さんから様々なご意見頂戴できればと思います。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

これからの進行は、会長をお願いします。

3. 会長進行

【会長】

それでは、(1) 第７次本別町総合計画後期基本計画アンケート調査結果報告について、事務局から説明願います。

4. 説明

【事務局】

事務局、大橋です。着座のまま、説明させていただきます。

表紙、第７次本別後期基本計画アンケート調査結果報告書、１頁、開いて、左側に「目次」、右側「調査の概要」時期、昨年１２月１日から１２月１５日までアンケート調査を行いました。

対象は、町内にお住まいの方、１,０００人を無作為に抽出し郵送にて送付、あわせて、町広報および町LINE公式アカウントからの回答を可能としました。

回答ですが、郵送による回答が２９６通、ＱＲコードによる回答が１３３件、合わせて４２９件の回答になりました。

回答結果ですが、対象を無作為抽出としたところから、年代別にみると年齢が高い層の方が抽出されたこともあり、年齢が高い層の回答が多く寄せられました。

２頁、年代の質問です。１０歳代から７０歳代以上の区分で回答をいただきました。ご覧のとおり、年齢が高い方からの回答が多く寄せられています。

同じく２頁、性別の質問です。ご覧のとおりの結果です。

３頁、住まいの地域の質問です。これも無作為で抽出しておりますので、市街地に多くの方が住んでいますので、本別地区からの回答が多く寄せられています。

同じく３頁、家族構成の質問です。ご覧のとおりの結果です。

次のページをお開きください。

４頁、この質問は、前期計画の際も同様な質問をさせていただいています。

質問は、「今後も本別町に住み続けたいと思いますか？」です。

円グラフの青いところが、「住み続けたい」１７８人、４１．５％、「当分は住み続けたい」１４６人、３４．０％、「別の町にやがて移りたい」９２人、２１．５％、「すぐにでも街を出たい」７人、１．６％の結果となっています。円グラフの下に、それぞれの理由を一部、掲載しました、ご覧ください。

頁の一番下の表は、「クロス集計」と言います。いただいた回答を年代別に表すもので、年代別の回答が分かるようなグラフです。ご覧のように、高齢の方が青いグラフが多くなっています。若い方より、高齢の方が「住み続けたく」、逆に、若い年代の方がどちらかというと、「別の町にやがて移りたい」との傾向です。

後半に、前期計画策定時のアンケート結果と今回のアンケート結果の比較ページがあります。後半

のページで説明させていただきます。

5 頁、「本別町の魅力について」の質問です。

この質問は、前期計画策定時のアンケートにおいても同様な質問をしています。総合計画の中に 6 つの「評価指標」を定めています。※マークがそれです。この「評価指標」は、年次毎の目標値を定めています。

表中、緑色が肯定的、黄色が否定的の回答になります。

6 頁、「本別町の人口が減少していくことについて、あなたの考えに最も近いものを選んでいただく」質問です。

「人口減少はやむを得ないが、減少を最小限に留めるべき」(35.7%) が最も高く、「人口減少はやむを得ない。減少に対応したまちづくりを進めるべき」(30.5%) であり、多くが人口減少を理解し、それに対応したまちづくりを進めるべきとの回答です。

ただし、「現在より増加するよう努力するべき」「現在程度の人口を維持すべき」(合わせて 30.0%) の意見もありますことから、人口減少を「当たり前」にしない意識を持ち、まちづくりを進めなければなりません。

6 頁、下段の表は、年代別のクロス集計であります。

年代別の比較を表します。40 歳代、50 歳代で他の年代に比べ、「現在より増加するよう努力するべき」「現在程度の人口を維持すべき」と考える割合が低くなっています。

7 頁、「本別町の人口減少が進行していった場合に生じるとされる社会影響について、大きく変わるとされるもの及び不安に感じることにについて」の質問です。

表中の上段、4 つの社会影響について、大きく変わると感じています。

下段の表は、年代別のクロス集計であります。年代別による差異は、ほとんど見られません。

8 頁、「今後の本別町がどのような取り組みに力を入れるべきだと、36 項目から選択いただく」質問です。

上から、「①町外からの企業誘致の促進」「⑬地域医療体制の充実」「⑥若い世代が求める働く場づくり」「④農林業の振興」「③地元中小企業の経営安定のための施策」「②競争力のあるものづくり産業の育成」「⑧妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」となっており、⑬、⑧を除き、多くが産業の振興、働く場づくり、産業の育成となっています。

当然、⑬、⑧も大切な施策であり、さらに、力を加える必要があると判断します。

上段の施策に関わらず、全ての施策に力を注ぐべきですが「稼ぐ力」、「営み」、「産業の振興」を考えると、「稼ぐ力」を高めながら、地域の「営み」を支え、「産業の振興」につなげる施策が重要と考えます。

9 頁、10 頁、11 頁は、年代別のクロス集計となります。12 頁は、中高生のアンケート結果、13 頁は、一般と中高生を含んだ集計となります。

14 頁、年代別で比較した表になります。「①町外からの企業誘致の促進」は、各年代別で 1 位、全体でも 1 位であります。年代別の比較を確認出来ます。

15 頁から 28 頁は、「本別町にまちづくりにおける重点的に取り組むべき事項や、まちづくりへのご提言など、自由記載」で回答をいただいています。

回答者からいただいてものをそのまま掲載しています。提言、要望、批判、感想、質問など様々な回答をいただいています。先日、開催の推進委員会でも同じ結果報告を説明しています。

後期計画の策定をはじめ、本別町のまちづくりにおける大切な提言と受け止めています。

29 頁、ここから資料編となります。

最初の中高生アンケート調査結果については、後ほど説明させていただきます。

37 頁、「前期計画策定時調査と今回の調査結果の比較について」です。今回の調査が青色、前回の調査結果がオレンジ色です。

比較で特徴的な回答について、説明させていただきます。

38 頁、質問 5、「今後も本別町に住み続けたいと思いますか？」の回答です。前回、50%の方が「住み続けたい」と回答をいただいていたましたが、今回は、8.5 ポイント減少の 41.5%となっています。大

きく減少しています。次に、「別の町にやがては移りたい」の回答です。前回、13.3%の回答をいただいていたが、今回は、8.2ポイント増加の21.5%となっています。

回答として、町としては、多くの方が「住み続けたい」と回答いただけるまちづくりを進めていかなければなりません。

39 頁、質問 7、「本別町の人口が減少していくことについて、あなたの考えに最も近いものを選んでください？」の回答です。前回「人口減少はやむを得ない。減少に対応したまちづくりを進めるべき」がトップの回答でしたが、今回は、「人口減少はやむを得ないが、減少を最小限に留めるべき」がトップの回答となっています。

このことは、これまでは、ある程度の人口減はやむを得ないとし、人口減に対応したまちづくりとの回答でしたが、大きく人口減少が進んだ今、人口減少を最小減に抑えよとの回答との思いが多いと判断いたします。

40 頁、質問 8、「本別町の人口減少が進行していった場合に生じると思われる社会影響について、大きく変わると思われるもの及び不安に感じることを、次のうちから〔3つ以内〕を選んでください」の質問です。本、回答は、前回調査とは、大きく変化は有りません。

41 頁、この表は、前期計画策定時に定めた「評価指標」について、記載しています。今回の調査結果をピンク色で示しています。前期計画最終年度に向けた「目標値」に向け、まちづくりを進めます。以上で一般分の説明といたします。

【会長】

一般分の説明について何かありますか？

【委員】

郵送の回答とデータ回答との重複はありませんか？

【事務局】

郵送の回答は、エクセルで打ち込みしています。データの回答は、そのまま、エクセルに入ります。並び替えを行っています、重複は無いと思います。

【委員】

このアンケート結果をどう計画に反映していくのか？

【事務局】

難しいですが、先ほど事務局から説明したような傾向は見受けられます。今後どう計画に反映するのか、どんな取組をしていかなければいけないのか、アンケート結果の傾向を踏まえた上で我々が下地を作っていかなければならないのかなというふうに思います。

具体的に回答で言われたことをそのまま展開出来るとは限らないが、どう計画に盛り込んでいくかが大切と考えています。

【事務局】

前回の計画策定の際は、審議会でもいただいた意見を「何々委員の発言（意見）」に対し、どう計画に反映したかお示ししています。

ただ今の委員さん発言ですが、今回のアンケート、色々な意見があります。回答の中には「提言」「要望」「批判」「感想」などがありますので、先ほど、課長がお答えいたしました通り、アンケート結果の傾向を踏まえた上で、どう原案を作っていくことが重要なのかなと思います。

【委員】

計画策定にあたり、今回のアンケート結果を参考にしたいと思います、この会議の前に推進委員会を開催しています。後期計画のたたき台は、推進委員会で作るのですか？

【事務局】

それは、次の協議の「今後のスケジュール」の中で皆様に、お諮りをしていきます。

【委員】

アンケートの中で、人口減少だとか将来に向けてのまちの「衰退」などの回答があります。結構の

皆さんが不安ととらえています。加えて、働く場所の減少、行政の衰退も不安材料があります。まちづくりの提言の中に、何かいろんなヒントがあるかと思います。

その中に一つには観光客が集まれる場所を作る、キャンプ場だとか、道の駅ですか、道の駅は老朽化しているので、高速道路周辺に道の駅、温泉、ホテルなどの複合的観光施設を新設してはどうか。

(アンケート回答の一部)

流動人口を増やしていくという政策を進める必要がある、自然増では、人口増は難しい。

可能性があるとしたら、他の町からの観光客、流動人口を増やす、そして、そこに仕事の方ができ、働く場所が出来る、そういう政策も一つではないか。

一番、早いのは、難民の受け入れも人口の増やし方の一つですが。

【委員】

40 頁の前回との回答の比較ですが、不安に感じることの回答が、5 年前と同じというのは、5 年間、何も変わっていないということになる。町民のアンケートを参考に進めてきたのだから、その不安が変わらないとの結果をみて、私は、不安に感じます。この 5 年は何だかなっていうのをちょっと思いました。

【委員】

アンケートの中に合同納骨塚整備について回答がありましたが？また、子育て支援についても充実する必要があるとなっています。移住対策についても進めると前回の時に進めるとなっていたが、今回の要望についても一緒に回答となっている。

【事務局】

基本的にはアンケート結果もそうですし、今回作り上げる計画もそうですけれども、町民の皆さんの望むことを十分取り組んで、盛り込んだ上で作っていかなければ、町のためにならない、何のために役場が動いていただろうってということになるかと思います。

この場の意見やアンケートの意見を十分我々が汲み上げて政策を取り組んでいかなければならないのかなというふうには十分に承知しているところです。

結果的に 5 年前の結果と同じと委員からありましたが、もしかしたら、我々がやってきた取り組みの成果が乏しかったと、捉えなければならぬと私も、今、思ったところです。本当に良い成果が出るようにどう取り組んでいくのかっていうのが我々突きつけられている課題なのかなというふうに捉えています。

【委員】

合同納骨塚整備、温泉の整備については、今、少しずつ動いていますが、これは、前期計画に計画されていますか？

【事務局】

総合計画の構成の中で、10 年先をめざして、「基本構想」があります。前半 5 年間で「前期基本計画」、後期 5 年が「後期基本計画」です。基本計画にそれぞれ事業計画があり、これが「実施計画」となります。

現在の実施計画には、合同納骨塚整備の計画はありません、議会等の議論があり、アンケート調査を行いました、現在のところ計画には至っていません。

【委員】

前の会議でも発言しましたが、審議会で計画を作るだけで、検証をしないから、こんな結果になるのでは。前期計画も同様で、この審議会において途中で検証をしていない。

【事務局】

委員さんの発言のとおりです。計画進行において、PDCA サイクルが大切と言われます。

今は、PDCA サイクルの「P」 Plan (計画づくり) です。委員さんの言う、「C」 Check (検証・評価) について、役場の組織においては行っていますが、本審議会においては、行っておりません。

そのことから、昨年、本審議会の条例を変更し、「計画づくり」のみから「成果の検証」も含め審議会の任務としたところです。委員の皆様には、計画策定後も引き続き進行管理にも携わっていただきたいと思っております、よろしくお願いします。

【委員】

このアンケートの中に、何人かが「若い職員や働き手が離れていかないような体制を徹底すべき」

「若い職員の皆さんが、思い切り力を発揮できるような環境が必要だと思います。」「役場の若い職員がたくさん退職している問題の解決を。パワハラを見逃している管理職の責任。」などの回答を見受けられます。

役場組織の推進委員会においても同様な結果報告書で説明しているとお聞きしました。課長さん方もこの回答をみている訳ですから、若い職員を育てることも大切と感じます。

【委員】

町で起業家等支援補助金制度がありますが、ことごとく、途中でダメになり、撤退している企業があります。この制度について、撤退する企業について、制度を改善していかないといけないと思います。補助金を目当てで起業している。企業として成功していくシステムをもうちょっとそこを改善してもらったらいいのかなという気はしています。

【事務局】

制度上、審査会議には、銀行、商工会、会計事務所も入っており、起業の後押しをするのが目的となっています。

委員さんの意見としては、制度上、撤退にかかる部分について、見直しが必要ではないか、との意見ですね。

参考：本別町起業家等支援要綱

目的：起業の促進による産業の振興、商店街の活性化、雇用の促進

奨励金の対象者：3年以上の事業継承の見込み

奨励金の取消し：営業開始日から3年以内に事業を廃止した場合

【委員】

今後、集客を目指す、民間企業が進出してもらい、育てていくシステムは必要と思います。制度をもう少し見直す必要があると思います。

【会長】

他に、何か有りませんか？それでは、続いて、中高生アンケートについて説明願います。

【事務局】

中高生アンケート調査結果報告書について説明いたします。

1 頁、調査の概要です。

回収率ですが、高校、勇足中学校が高いです。3校とも同じ様に依頼をしています。

2 頁、年代、性別をお聞きしています。問3 お住まいですが、それぞれ、本別、勇足となっており、本別高校への通学者が本別町以外になります。

3 頁、家族構成です。

3 頁下段、「今後も住みたいと思いますか」の質問です。4 頁をご覧ください。それぞれの区分ごとの理由です。

「住みたい」の主な理由で「本別町は自然が美しい町であるため、その景観をずっと保全したいから」という理由があります。本別町の生徒です、素晴らしい感覚を持っています。

また、「酪農家で継ぎたいから」理由です。跡継ぎの子供さんと推察します。

5 頁、「本別町の魅力について」の質問です。これは一般の方と同じ質問です。7「道東の交通の要衝・拠点である」11「老後の暮らしが安心である」について、否定的な回答となっています。

6 頁、「人口が減少していることについて」の質問です。

一番多かった回答は、「人口減少はやむを得ない。減少に対応したまちづくりを進めるべき」となっています。

7 頁、「人口減少が進行していった場合に生じられる社会影響について」の質問です。

この回答については、一般と比べ、「伝統・文化」「スポーツ・娯楽余暇」の衰退が多く感じます。

8 頁、「今後、行政がどのような取り組みに力を入れるべきかについて」の質問です。

一般アンケート調査と同様に1 から 36 番を選択いただきました。

トップの回答が、「6 番、若い世代が求める働く場作り」となっています。「5 番、観光の振興」「1 番、町外から企業誘致」となり産業の振興が必要と判断しています。

一般との違いは、「8 番、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援」「12 番、本別高校の維持・存続」「19 番、若い世代にターゲットを絞った移住支援」「23 番、スポーツ・文化施設の充実」が上位の回答になっています。

また、特徴的な答えとして、「17 番、持続可能なまちづくりの着実な推進」が入っており、SDGs を意識した回答と感心します。

9 頁から 11 頁は、一般と同様に「まちづくりにおける重点的に取り組むべき事項や、まちづくりへのご提言など、ご自由に」回答いただきました。生徒さんらしい、回答も見受けられます。

【会長】

中高生分の説明について何かありますか？

【委員】

3, 4 頁ですが、質問 5 に対して、「わからない」との回答が多いです。中高校生なので将来どうするか決まっていなくていいのは勿論なので、そういう意見が多いと思います。

これがチャンスっていうか、こういう子どもたちに本別で働きたい、本別に住みたい、と思いにさせる、まちづくりが必要だと思います。

また、気になった点として、本別中学校の回収率が低いのが気になります。

【事務局】

先日、課長会議の際も同様な質問がありました。

健康・子ども課で策定中「本別町こども計画」のアンケート回収率も中学校が低いと聞いています。

事務局としては、本別中学校の回収率（40.6%）が低いと判断はしていません。本別高校、勇足中学校と比較すると低く見えますが、普通、アンケートの回収率はこの程度と色々な書物に記載があります。

【委員】

学校側に回収率が少ないですねと尋ねたのか？

【事務局】

いいえ、学校には言えません。学校サイドの業務ではありません。

【委員】

町の将来のことなので、大切な調査物ですよ。

【会長】

他に何かありますか？無いようなので、次に、今後のスケジュールについて、説明願います。

【事務局】

各種計画策定スケジュールについて、説明します。

昨年 4 月から総合計画の準備をスタートしています。

第 1 回目の審議会を 8 月 26 日に、その後、10 月 24 日、11 月 26 日、そして、本日 4 回目の総合計画等審議会を開催させていただいています。

来年度は、2 回の開催を予定しますが、足りない場合、回数を増やすこともあります。

中段、副町長がトップの本別町総合計画等推進委員会を 8 月 5 日、10 月 7 日、2 月 3 日に会議を開いております。

先ほども言いましたように、アンケート調査結果報告書はすべての課長に配っております。

データについても、本日の会議が終了後、各課に配信します。

下段、行政報告、さらに、審議会の開催毎に町ホームページに情報をアップしています。

後期基本計画は、議会の議決事項のため、スケジュールでは 9 月議会に提案の予定ですが、令和 7 年度は町長の改選期のため、提案の時期は予定であります。ご理解ください。

一番、下段、記載のとおり、総合計画の策定に平行して、「本別町過疎地域持続的発展市町村計画」並びに「本別町デジタル田園都市構想総合戦略」の策定も進めていきます。

先ほど委員から質問のありました、「今後どう進めていくのか」ですが、「これまでの審議会におい

での協議」そして「町民アンケート結果」さらには、「本別町総合計画等推進委員会」における協議や前期計画における各年度における総括等を基に、推進委員会において、後期基本計画の原案（たたき台）を作っていきます。そして、そのたたき台を基に、この審議会の中でそれを煮詰めていきたい。

「原案」から「素案」、「素案」から「案」へと審議会と推進委員会においてキャッチボールをしながら、進めていきたいと考えております。

【会長】

はい、こまでの説明のところで何かご質問ご意見等ある方はいますでしょうか？

【委員】

前期の策定と同様なパターンと思います。前期計画をベースに修正なり、審議会での意見反映をさせることで良いのか？

【事務局】

はい、その通りです。

【委員】

原案の作成の時期はいつ頃になるのか？

【事務局】

スケジュールでいくと6月を予定しています。

【委員】

計画案の決定は、いつか？

【事務局】

先ほどもお話ししましたとおり、令和7年度は、町長の改選期のため、決定の時期のあくまで予定であります。ご理解ください。

6月はまだ選挙前なので、今まである資料を基にたたき台を策定する予定です。それ以降については、色々、未定なことがあり、詳細は分かりません。

【事務局】

確認します。この会議の1回目の時、「後期基本計画策定方針」を説明しました。

「総合計画」には、「基本構想」があり、その下に「基本計画」があり、前期計画が終了することから、後期計画を策定するとしています。その基本方針には、「基本構想」については、そのまま踏襲するとしています。

ですから、

「Ⅰ.安定した産業から、わくわく笑顔をつくり出すまち」「Ⅱ.人と人とのつながりで、いきいき笑顔で暮らすまち」「Ⅲ.豊かな心と、さらさら笑顔を育むまち」「Ⅳ.安全と安心を確保して、にこにこ笑顔で暮らすまち」「Ⅴ.みんなの笑顔未来につなぐまち」の5つの目標は、基本的に変わりません。

それにぶら下がっている、22の施策、並びに、それぞれの施策の中にあります、「重点的な取り組み」について、推進委員会において、たたき台を作成し、委員の皆さんにお示ししたいと考えています。

スケジュールには、6月と8月に審議会の予定をしています。6月にたたき台を示し、その後、委員の皆さんからご意見いただいて、修正等を加えますともう一度程度開催する可能性もあるかと思えます。

加えまして、基本計画に沿った形で「実施計画」を作成、さらに、「本別町過疎地域持続的発展市町村計画」、地方創生につながります「総合戦略」についても策定を進めていきます。

【会長】

事務局の説明に対し、何かありますか？

その他で何かありますか？

次回、審議会について

【会長】

次回審議会の開催については、令和7年6月下旬を予定されています。

本日の会議は以上となります皆様ありがとうございました。

